

## 白山の火山活動解説資料（令和3年7月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図3～4）

白山付近の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されていません。



図1 白山 山頂部の状況  
（7月17日 白峰監視カメラによる）

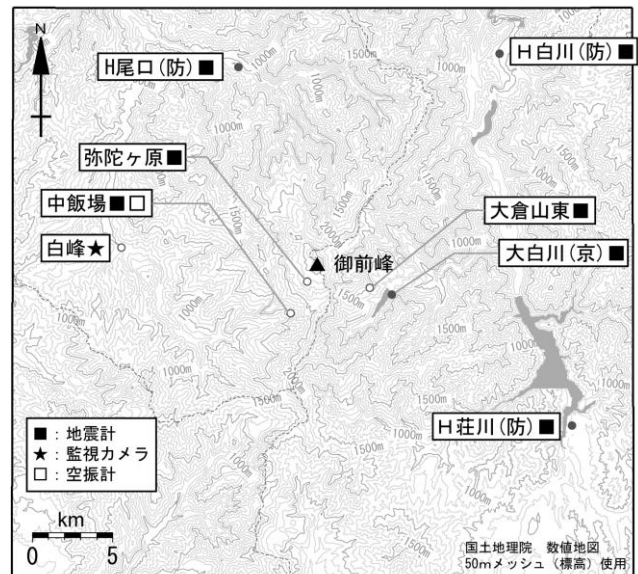


図2 白山 観測点配置図  
小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年8月分）は令和3年9月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています

【計数基準の変遷】  
 開始 2005年12月1日～2011年9月30日 弥陀ヶ原：振幅1.0μm/s、S-P時間1.5秒以内  
 変更① 2011年10月1日～2014年9月18日 中飯場：振幅1.0μm/s、S-P時間1.7秒以内  
 変更② 2014年9月18日～2021年5月17日 弥陀ヶ原：振幅1.0μm/s、S-P時間1.5秒以内  
 変更③ 2021年5月17日～2021年7月26日 中飯場：振幅1.0μm/s、S-P時間1.7秒以内  
 変更④ 2021年7月26日～ 弥陀ヶ原：振幅1.0μm/s、S-P時間1.5秒以内

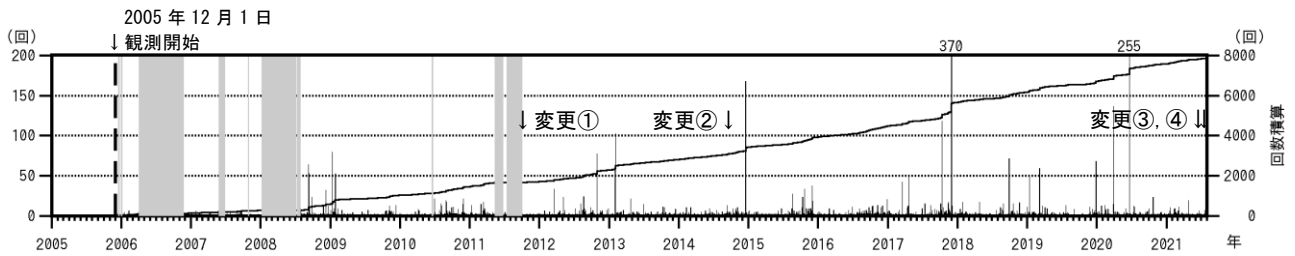
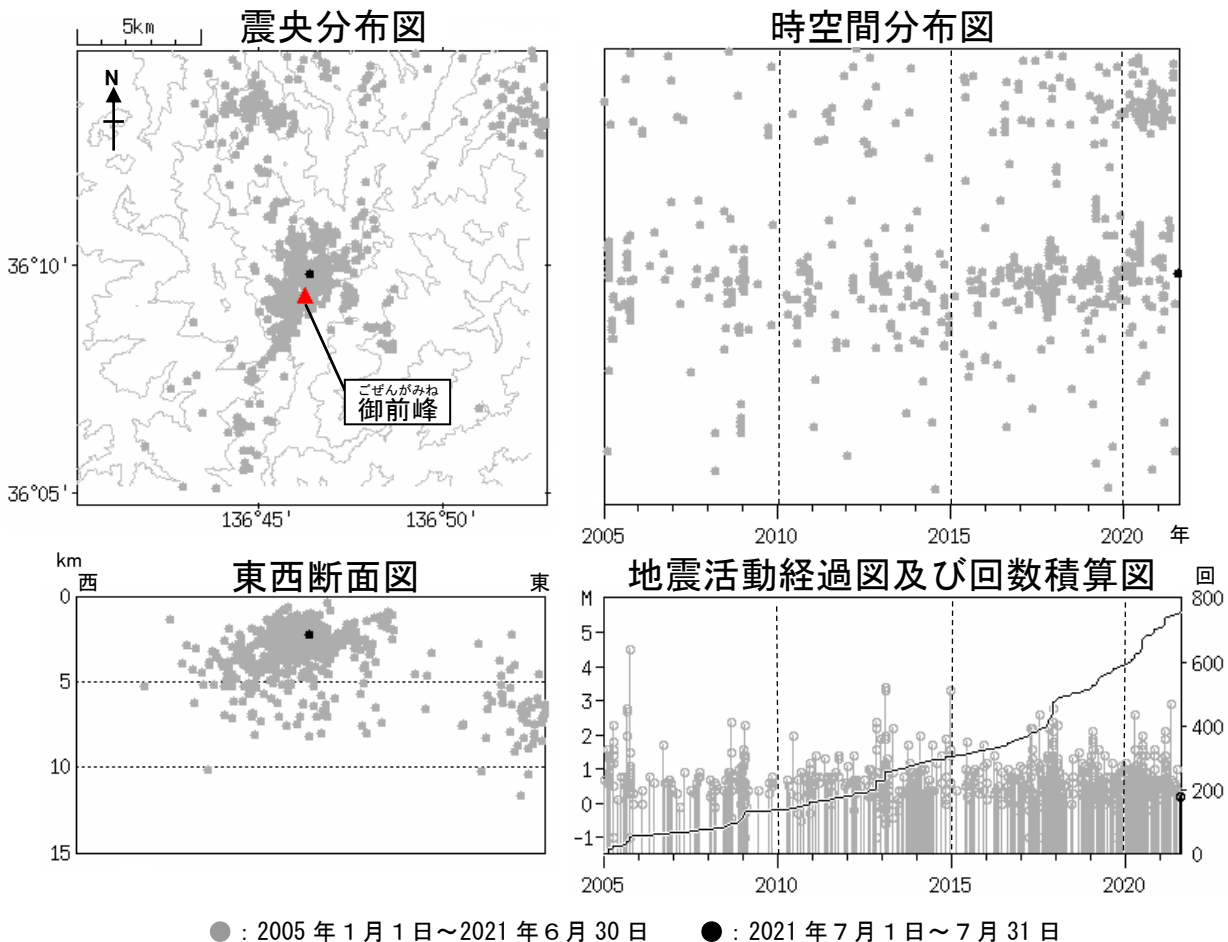


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005年12月1日～2021年7月31日）

図の灰色部分は機器障害による欠測期間



●：2005年1月1日～2021年6月30日 ●：2021年7月1日～7月31日

図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2021年7月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中のマグニチュード、震源位置は暫定値で、後日、変更することがあります。

この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

2021年8月10日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

①2020年4月18日から10月23日まで、②2021年1月9日から3月7日まで、③2021年4月19日以降

・今期間、震源は御前峰付近の海面下2km付近に分布しています。